



発行 明治大学マスコミクラブ  
 〒101-8301  
 東京都千代田区神田駿河台1-1  
 明治大学広報課内 MMC事務局  
 電話 03-3296-4082  
 FAX 03-3296-4087  
 e-mail : mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp  
 発行人 本村 隆  
 編集 馬淵 豊・梶野 雅秀

MMC創立30周年記念号 繋ぐこうつ明治の力!  
 30周年を新たな出発点に

MMC会長 本村 隆



MMC会長 本村 隆

昨年は明治大学創立百三十周年で様々な式典や催しが行われました。私もアカデミーコモンで開かれた大学の式典に招かれ、あらためて明治大学の百三十年という歴史の重みを実感いたしました。翻って、我々MMCも今年で三十周年となります。駿台ジャーナリストクラブと明大マスコミ会が合併して十年となりますが、今こうしてMMCとして活動

できているのも、それぞれのクラブに加盟していた諸先輩が一致協力して頑張ってきた結果だと思えます。その懐の深さや愛校心に対し改めて御礼申し上げます。さして、マスコミを取りまく環境は年々厳しさを増しています。既存のメディアからインターネットなどへ広告費が流れたことで、新聞や出版などの活字メディアはこれまでにない苦しい状況となっています。テレビも決していいとは言えず、既存のマスコミ業界は先行きに明るさを感じられないといった状況です。業界の景気という意味ではなかなか苦しいものの、東日本大震災報道に邁進された地元新聞やテレビの頑張りは、そうした閉塞状況とは別の次元で、本来マスコミが担う社会的な使命を全うするものだったと思います。

新年を迎え遅々として進まなかった復興の植音も徐々に聞こえてくるようになってきました。福島の原発がどうなるのかという不安定な要因を抱えつつ、マスメディアは震災以後の日本がどういう方向に進むべきかという写真を描く責務を負っています。我がMMCもメディアの一端を担うものの集まりとして、震災以後の日本のありかたについて考えなければいけない立場にあります。

そういう意味では、一番大変なこの時期に三十周年を迎えたことは、我々に課せられた責任の重さを再認識させるいいタイミングであり、この二十二年を新たな出発点として進んでいきたいと考えています。

MMC初代会長 木元 尚男



MMC初代会長 木元 尚男

明治大学マスコミクラブが今年30周年を迎え、その存在意義が益々高い評価を得ていることは、関係者の皆様のご活躍によるものと深甚なる敬意を表します。

本学には、駿台ジャーナリストクラブを継承した、駿台マスコミクラブと、明治大学昭和会の明大マスコミ会の2団体がありました。

いつの頃であったか、私は両団体に所属していた関係で、TBS時代の上司であった渡辺宏駿台マスコミクラブ会長の意向を受け、両団体の役員に1本化の打診をいたしました。

その間、かなりの紆余曲折がありました。思えば、この両団体が統合に至ったのは、当時の駿台マスコミクラブ会長秋元秀雄氏と、明大マスコミ会会長堀威夫氏の英断によるものであります。

今後二層の活動を期待

そして、2000年初頭、この両会が「明治大学マスコミクラブ」として新しい一歩を踏出すに至った次第です。

いまの社会は、技術の進歩に支えられたメディアの多様化により、情報が瞬時に世界に伝わる高度情報化社会です。世界各地で起きている改革や騒乱も、情報が人々の心を揺さぶり、行動を起こさせたと云えます。

いま日本で、大きな話題と言えば放射線がありますが、放射線と放射能、放射性物質の混同、また放射線の単位であるベクレル、シーベルト、グレイなどの表現の混乱が気になります。

宇宙には宇宙線(放射線)が飛び交い、地球も誕生の時から放射線は存在しています。CT検査では6.9ミリシーベルトのやや高い放射線を受けますが、しかし病気の発見が遅れるリスクと、検査で放射線を意図的に受けるリスクのどちらを選択するか。

このように、社会には二律背反的な事象が常に身近にあります。



MMC 発足総会 (2000年1月)

本学でマスメディアを目指す学生諸君は、このことを念頭に置き「科学的事実に基づいた正確な情報を伝え、社会の為に役立つ情報を発信するよう心掛けて頂きたい。明治大学マスコミクラブがマスメディアで働いている方々に、また、これからマスメディアを志す方々に、少しでもお役に立つ存在でありたいと願っております。

30周年を期に、今後二層の活動を期待いたします。  
 木元尚男(29年・商)

# 明治大学マスコミクラブ創立30周年を祝す

明治大学  
理事長 長堀守弘



明治大学マスコミクラブが創立30周年を迎えられました。これもひとえに、駿台ジャーナリストクラブ初代会長の渡辺宏氏、明大マスコミ会初代会長の吉川英司氏をはじめ、歴代関係諸氏の熱意と努力が実を結んだ賜物と存じます。

皆さまもご高承のとおり、当大学は昨年創立130周年を迎えました。岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操の3人の先生方の情熱と真摯な姿勢は、建学の精神である「権利自由」「独立自治」として今に受け継がれています。大学の使命とは、教育・研究の高度化を基本とし、日本国内は言うに及ばず世界で活躍できる人材を育成すること、また、社会人として立派に責任と義務を果たすことができると人格の陶冶を図ることだと私は考えます。

大学を取り巻く環境は18歳人口が通減傾向で全入時代となり、大学間競争は熾烈になっております。その中で当大学は、2年連続で入学志願者数が日本一になりました。新学部の新設置やサッカー日本女子代表監督の佐々木則夫氏をはじめとした校友の活躍もあり、当大学が世間に注目される機会が増えてまいりました。今後も伝統と歴史を継承しつつ、時代の要請に応えるべく新たな改革を推進し、素晴らしい人材を輩出し続けたいです。そして、いま以上に社会へ貢献してまいります。

また、明治大学は世界に誇れる大学を目指し、世界に向けた提言を発信する教育研究拠点としてさらなる進化を図ってまいります。明治大学マスコミクラブの皆さま方も、今後の明治大学によりいっそう注目していただき、さらには皆さま方のご理解・ご協力を得て、明治大学をメディアに大いに取り上げてくださいます。大学当たら幸甚に存じます。大学当局も積極的にプレスリリースを行い、戦略的な広報展開をしていく所存であります。

結びにあたり、創立30周年を心からお祝い申し上げます。関係各位のご活躍及びご多幸、そして、明治大学マスコミクラブの今後ますますのご発展を心からお祈りし、ご挨拶いたします。

校友会  
会長 向殿政男



MMC(明治大学マスコミクラブ)は、2000年頃にマスコミ関係の会が大同団結して発足したことは知っていました。その前に約20年間の歴史があり、華やかな活動の歴史を有していることに驚きました。先人の御努力に敬意を表すと共に30周年をお祝い申し上げます。

MMCには、私は、ある思いがありました。それは、MMCが毎年、マスコミ関係の就職セミナーを現役学生のために開催して頂いていることを知っていたからであり、その積極さと後輩を思う熱意に頭が下がっている思いをしてきたからです。ときどき、MMCの会合に顔を出させて頂く機会があります。きら星のごとくに活躍された素晴らしい先輩の存在と幅の広い人脈と後輩を思う会員の気持ちの強さに、常に感銘を受けていたからです。

明治大学の良きところは、どの分野にも卒業生がいるという多様性をもった人材の豊富さにあるでしょう。是非、マスコミ関係のあらゆる分野、新聞、テレビ、ラジオ、広告、制作エグゼクティブ、IT関係等を中心に、明治大学の学生が広範囲に就職し、活躍されることを期待しています。マスコミにおける卒業生の数とその活躍が、母校の名声を上げるためには、最も大事の一つであると考えています。なぜならば、我々は、卒業生が活躍していることをマスコミを通じて初めて知り、マスコミに母校の名前が出たり、現役や校友の活躍に関する報道に接すると欣喜雀躍するからです。それが母校愛の源、校友活動の元気の源となり、ひいては母校の強力な支援に繋がるからです。

明治大学建設・不動産駿台会  
会長 太田裕康



齊藤柳光前会長は、現在、校友会の広報担当の副会長として、ネットとウェブを用いて校友間の情報共有を目的とする紫紺ネットの構築のけん引役になっていきます。齊藤前会長をはじめとしたMMCの会員の仲立ちで、是非、MMCと校友会とが共同をして、明治はつのスローガンの下、手をたづさえて母校発展の支援に努力しようではありませんか。どうぞ、宜しくお願いを致します。

全国紫明クラブ  
会長 上西紘治



この度は、明治大学マスコミクラブ創立30周年を迎えられ、誠にありがとうございます。また、私共明治大学建設・不動産駿台会を同じ明治大学昭和会の流れを汲むOB・OG会として常日頃から交流させていただき、大変うれしく思い、感謝の念に絶えません。30年間という長きに亘り、諸先輩方のご努力・ご尽力はもとより、会員一人一人のご活動・ご活躍があればこそ、このように会が続いていくのだと確信する次第であります。私共の業界でも、情報は、まずは知る事の大切さ、そして分析し、理解すること、その上で行動に移すことの指針のつらくなっています。正にマスコミ業界との深いつながりが重要なものになっております。お互いに切磋琢磨し、より一層の努力を重ね、活動していくことで「明治大学および社会に貢献する」という我々OB・OGにかけられた使命であると思えます。

最後に明治大学マスコミクラブ設立30周年記念総会の成功を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

貴クラブが創立30周年を迎えられました事に心より敬意を申し上げます。発足以来、会員皆様の脈々と受け継がれた熱き思いが、長き歴史と輝かしい伝統を築かれたものと敬意を表する次第です。

知の集団であるマスコミクラブは、幾多の校友会組織の中でも常にリーダー的存在であります。私達全国紫明クラブも、皆様の活発な活動、即ちマスコミ講座、就職セミナー、フォーラムをはじめとした活動にいつも注目し模範としているところです。

「時代の夢を破るべく、正義の鐘を打ち鳴らさん」明治大学校歌の一節ですが、まさにオビニオンリーダーたるマスコミクラブにはこれからも時代の先端を走り続けて頂きたいと思えます。全国紫明クラブも異業種交流を通じて「高き理想の道を行く」がごとく人間成長を目指して活動を続けて参ります。今後も変わらぬご厚誼の程をお願い申し上げますとともに、貴会ますますのご隆盛を祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

# ワレエッセイ 北から南から

## 。ハタゴニア紀行

常任顧問 木村武



ハタゴニア テントサイトにて

### 1 パタゴニアとは。

衣料品のブランドと聞かれるぐらい、なじみのない土地だ。南米のパタゴニアは、南緯40度から55度の南極に近い、氷河と湖、そしてアンデス山脈の岩山に囲まれた秘境である。

面積は、日本の3倍、北緯40度の秋田から北緯55度カムチャッカ半島の広さを想像するとわかりやすい。アルゼンチンとチリにまたがりマゼランが1520年に発見した。

### 2 フロリダ

3月初めに成田を出発、同行するフロリダに住む友人宅を中継基地としてトレッキングの準備をすすめた。昨年訪問した時は、100年ぶりの寒波で花が全滅していたが、今



ペリト・モレノ氷河国立公園

年は、ハイビスカス、ブーゲンビリアなど南国の花が満開だ。世界ゴルフ博物館のあるセントオーガステイのゴルフ場の彼の家は庭先が11番ホールのフェアウェイで、短パン、半袖でプレイができた。また海も近く鰐に注意しながらの蟹とりや釣りも楽しめた。4日ほど滞在、トレッキングに出発。

### 3 エル・カラファテ

フロリダからブエノスアイレス経由でパタゴニア入り口エルカラファテまで12時間のフライトである。小さな街は、森と湖に囲まれ、ペリト・モレノ氷河国立公園の観光基地として賑わいがあった。日系3世経営のミヤザト・インに泊まるが日本語は通じない、アルゼンチン美人の奥さんが英語とカタコトの日本語できりもりしていた。旅の荷物はここにデポして

テント生活のトレッキに出発。  
4 フイツロイ山(3405m)  
エル・カラファテから220km登山口エル・シヤルテンまでのバスは、緑のない禿山のようなパンパと呼ばれる荒野を走る。時々、パタゴニアだけに住むラマのような、グアナコが20から30頭群れで現れた。またコンドルもみかけた。エル・シヤルテンは、風速10mから20mの風が絶え間なく吹いて、人影のない街だ。フィツロイは、氷河に削られた鋭い岩壁が世界中のクライマーの憧れの山だ。最初のキャンプ地は、氷河湖の近くで、秋なのに冬の寒さだ。

### 5 プエルトナタレス(チリ) バイネ山(2800m)

エルシヤルテンからカラファテに帰り、ミヤザトインで3.11東日本大地震と、大津波、原発事故をCNNニュースで知りショックをうける。東京への電話連絡で家族の無事を確認、トレッキングを続行。パイン山の入り口、プエルトナタレスまでバスで6時間、チリ国境の税関で2時間待たされ、8時間の長旅となった。税関の

プエルトナタレスからバスで12時間の長旅となったが落ち着いた町の雰囲気と親しみやすいアルゼンチーナが疲れをいやしてくれた。ブエノスアイレスとウシュアイワは、思いきつて



バイネグランデ

チリ美人の職員が笑顔を振りまき唯の慰めとなった。  
この街の人口2万人、チリ側のパタゴニア入り口、そしてパイン国立公園の観光基地である。海が近く魚料理とワインの美味しいレストランが多かった。トーレスバイネは、花崗岩の岩山が氷河に侵食され鋭いタワーのような岩峰である。またバイネの角と呼ばれるバイネグランデは、3000mの大きな岩山が、いつも励ますかのように姿をみせた。

3泊4日の天幕トレッキングは、快晴に恵まれ、パタゴニアの自然を満喫した旅になった。  
6 ウシュアイワ(アルゼンチン) 南極まで1000kmぐらいのウシュアイワは、世界最南端の街である。

プエルトナタレスからバスで12時間の長旅となったが落ち着いた町の雰囲気と親しみやすいアルゼンチーナが疲れをいやしてくれた。ブエノスアイレスとウシュアイワは、思いきつて

プエルトナタレスからバスで12時間の長旅となったが落ち着いた町の雰囲気と親しみやすいアルゼンチーナが疲れをいやしてくれた。ブエノスアイレスとウシュアイワは、思いきつて

5つ星ホテルにし、久しぶりにゆつたりとした。マゼラン海峡とビーグル水道に囲まれた街は、南緯55度の森林限界が迫り、いつも強風が吹き、高山にいたるようだ。観光もマゼランペンギンの生息地のクルーズなど楽しい体験をした。

帰国のウシュアイワ、ブエノスアイレス、フロリダ、成田までの長いフライトは、それぞれの中継地で休息と観光を挿み、楽しい思い出となった。

## 北海道に人材を

北海道放送(株) 磯田雄大



北海道が直面する危機も見続けてきました。入社2年目の1997年には「都市銀行」の北海道拓殖銀行が経営破綻。5年前の2006年には倒産するはずのない「自治体」の夕張市が、年間収入の60倍にもあたる600億円以上の負債を抱え財政破綻。長引く地元経済の低迷に加え、地上デジタル化の設備投資もあり、我々地方局の経営も厳しさを増しています。

こうした地方の事情もあってか、若い人材の「温度の低下」が気になります。これは地方だけの問題かもしれませ

北海道札幌市の現場から、1996年(平成8年)商学部卒業の磯田雄大(いそだかつひろ)がお伝えます。5年間に及ぶ大学生活を経て、16年の放送局に入社してはや1ヶ月が経とうとしています。私は大学時代の経験から、遊び心溢れる仲間と議論し

んが、夢を抱いて放送局に入ってくる若者が極めて少なくなりました。「内定が出たから」「北海道で暮らしたいから」などと、我々の時代では1次面接で落とされそうな理由で入社してきます。

就職斡旋の仕事をしている知人によれば、もうマスコミ、特に地方局は「斜陽産業」で、人気業種ではないと言います。それも「時代だから」と納得する風潮もあります。しかし、マスコミは権力と対峙し、ときには夢を語る仕事です。それで良いのでしょうか。

そこで、明大マスコミクラブにお願いがあります。ぜひ、テレビの世界に夢を抱く、熱を持った若者を、北海道に送り込んで頂けないでしょうか。また、北海道内に明大出身のマスコミ人が少ないことも私は大きな問題だと思っています。このまま、先細る地方局を黙って見ているわけにはいきません。有望な若者をぜひ北海道に送り込んで頂いて、北海道の危機を脱しなければならぬのです。

MMC 30周年の節目に、ご縁ありまして、この執筆の機会を頂きました。これまでMMCの活動に積極的に参加出来なかったことをお詫びするとともに、ぜひ地方への人材供給もお忘れなく、お願いします。以上、すでに二面「銀世界」の北海道の現場からお伝えしました。

# 就職セミナー10余年、これからも変わらぬ学生支援を



所(出版)のOB4人にお話ししました。

近年、マスコミ業界も不況とネット関連企業に押され、売上減と変革を迫られています。10年前ならマスコミならではの景気のいい話の連続でしたが、今はコンテンツにどのような工夫を凝らして、いかにヒットや売上げを伸ばすかを力説していただきます。

MMCはマスコミOBの親睦会ですが、一人でもマスコミ業界に進出してほしいという母校への恩返し、そして新しい会員開拓の目的で2000年にスタートした「就職セミナー」を毎年開催し、5年前からは「マスコミ講座」を続けています。

春には「全体セミナー」、秋には「業界別セミナー」と題しまして開催しています。

2011年6月、リパティホールにて約300名の学生を集めて「全体セミナー」では主要マスコミ4業界から各1名の4名にそれぞれの業界の現状と就業状況を報告していただきました。2011年は日本テレビ、産経新聞、博報堂、PHP研究

その結果、今年4月入社予定の4年生は：読売新聞東京本社2名、日刊スポーツ新聞、東宝、日本コロムビア、静岡第二テレビアナ、FM愛媛、共同テレビジョン他、毎年10名以上の学生が大手マスコミに内定をいただいています。

また惜しくもマスコミに入らなかった学生でも、大手企業への内定をいただいています。今、マスコミ各社は生き残りをかけて切磋琢磨しています。私達はこれからもその厳しい状況を伝えると共に、今も変わらないクリエイティブな仕事に取り組みもうとする後輩諸君のアシストに全力を注ぎたいと思います。

もう一つの柱、「MMCマスコミ講座」は学生に対して、エントリースクール作成、作文、模擬面接を中心に実践的に、約6か月毎週各OBが講師として各期60人程を指導してまいりました。

残念ながら今年度は、東日本大震災の影響もあり、毎週の指導は休止し11月の集中講座開催にとどめました。来年度再開に向けて考慮中です。



# MMCホームページ完成!

MMC創立30周年を機に当会ホームページを立ち上げることが昨年5月の理事会で決定し、私が担当することになりました。

ところがいざ始めてみると、なかなか方向性が定まらず、原稿も集まらない。やると本格的に動き出したのは年末になってからで、この原稿を書いている本日時点でもまだ、完成には至っていません。これから皆さんの意見を反映させながら、徐々に進化させてゆきたいと思っています。

とは言え、とりあえず「MMCってどんな集まりですか?」という問いには最低限度答えられるものにはなりたいと思います。これからは、セミナーの講師の先生をお願いする時や、明大卒業生に会への参加を誘う時にも、便利なツールになると自負しています。

またHPの中には、現時点で手に入った過去の会報を閲覧できるコーナーも設置しています。特に設立当時の会報を読み直してみると、明大を愛し、さらに発展させたという設立当初の諸先輩方の熱い想いが伝わってきます。どうぞ読んでください。

母校明治の更なる発展に寄与できる明大マスコミクラブとしてこれからも明治の力を挙げてゆきましょう。その一助となるようなホームページを作つてゆきたいと願う所存です。



MMC ホームページURL  
http://www.meiji-mmc.com/

常任理事 山田祐司(83年・商)

編集長 馬淵豊



マスコミ界で活躍している明治大学出身者が横断的に親睦と情報交換、交流の場を絆として発足した「明治大学マスコミクラブ」は30周年を迎え同慶の至り。発足して以来駿台ジャーナリストクラブ(SJC)と、明大昭和会のマスコミ会が合併して、「明治大学マスコミクラブ」と名称を変えて10年になる。

そんな中、千年に一度といわれた東日本大震災、原発事故発生から平成二十四年を節目に新たなスタートを切ることは意義深いことであろう。世界情勢は、米国リーマンショック、欧州通貨不安、中東宗派争い等、日本田高の影響、経済不況は国民を底知れぬ不安に陥れている。「マスコミを取り巻く環境は厳しさを増す。既存のメディアからネットへ広告費が流れ、新聞、出版は苦しくなる一方、業界の先行きは明るくない」と木村武初代マスコミ会事務局長OB。また、元フジテレビ報道、政治ジャーナリスト竹内貞男OBは「ドロ舟の



沈没寸前の政局、国民はタイタニック号から放り出された人々と同じ運命なのか。そのためにも権力を見据えジャーナリズムのオビニオンリーダーとしてMMCは進んでほしい」と「前へ」の精神を強調する。「スタートは不安だらけ、しかし、広報課でマスコミ関係の卒業生を探し出してもらい手書きで住所を探し一覧表をまとめ、三千人にも及ぶ資料を作った」と発足当時、元共同通信、SJC初代事務局長の萩須勲OBは述べ、「権利、自由、独立、自治の精神をいまの内向き指向の強い現役明大生に」と叱咤激励する。そのためにもいま活動しているマスコミ就活講座開講の活動、ネットH.P.の開設はMMCの前に明るい陽光が射しこむことを望みたい。

### 明治大学マスコミクラブ(MMC)の系譜

年月日	昭和会マスコミ部会～明大マスコミ会	駿台ジャーナリストクラブ(SJC)～駿台マスコミクラブ(SMC)
1982.3.5	明大昭和会マスコミ部会設立準備会。 TV・ラジオ・広告・エンタメ・新聞各業界から10名参加。	
1982.10.27	第1回設立総会。マスコミ部会発足。 初代会会長 故 吉川英司(フジTV・常務)。27名出席	
1983.7.7	ニューメディアCATVフォーラム開催。50名出席	
1983.11.30		駿台ジャーナリストクラブ(SJC)設立総会。 初代会会長 渡辺宏(TBS副社長)。小島憲総長、 三木武夫元首相、飛鳥田一雄元社会党委員長来賓。 全国から約200名が参加。
1984.5		第2回総会。100名余出席。
1985.6.28	第4回総会。 第2代会会長 坂本哲郎(フジTV・常務)70名出席	
1985.10.25		第3回総会。明治大学100周年記念・新装大学会館にて。 第2代会会長 秋元秀雄(評論家)
1989.7.12	第8回総会。 第3代会会長 故 長井肇(毎日放送・常務)	
1989.11.10	第1回ゴルフ懇親会。(現在まで60回重ねる)	
1992.5.22		第10回総会。駿台ジャーナリストクラブ(SJC)から 駿台マスコミクラブ(SMC)に改称。 初代会会長秋元秀雄。SMCニュース1号発行。
1993.4.16	第12回総会。名称を明大マスコミ会に変更。 第4代会会長 堀威夫(ホリプロ会長)。80名出席	
1996.9.27	備前焼人間国宝、故藤原雄の窯元訪問。20名参加	この間、毎年、村山富市元首相、笹川堯代議士、 秋元秀雄・藤原弘達(評論家)、岡野加穂留(明大学長)、 竹内貞夫(OB・フジTV国会担当)らの講演活動
1997.7.23	第15回総会。 第5代会会長 中森久之(朝日放送・常務)。60名出席	
1999.1.22	SMCと明大マスコミ会が合同新年会。90名参加	
2000.1～	大学広報部要請で明治大学マスコミクラブとして合併(認証)発足。初代会会長木元尚男(TBS) 第2代会会長河合公八郎(NTV)、第3代会会長木村武(宣研)、第4代会会長齊藤柳光(日刊スポーツ)	
2011.1～	第5代現会長 本村隆(TBS)	

# サマーピクニックパーティーに参加して



昨年7月13日、銀座ガスホールで開催されたMMC恒例のサマーピクニックパーティーに参加しました。ビアパーティーへの参加は、大学時代以来になります。今回は「マスコミ人」としての参加です。大学時代にこのビアパーティーでお会いした先輩方のご指導のお陰で、2008年に希望していた広告会社に無事就職することができました。就職直後は、とにかく仕事が楽しく夢中で夜遅くまで仕事をする日々が続きました。就活直後は、とにかく、ビアパーティーのお誘いをいただきながらも、残念ながら参加できない年が続き、入社4年目を迎え、心身ともにゆとりがでて、今年こそは参加すると心に決めていました。

会場に入ると大学時代にお世話になった先輩方が一堂に介しており、数年ぶりにお会い

きて嬉しさと懐かしい気持ちになりました。大学時代はお話を聞かせていただいた先輩方と、今回は「マスコミ人」として仕事のお話をする事ができるだなんて、感慨深いものです。大学時代の出会いが今につながる。そんな素敵な出会いがあるのがビアパーティーです。是非大学生もご参加ください。

稲葉真由香(08年・情報コミュニケーション学部卒)

## 第6回MMCサロン開催

恒例の情報交換会「MMCサロン」が昨年12月2日、これもまた恒例のレストラン「アミ」で開催されました。6回目となる今回は特に女性会員が目立ち、皆さん積極的に名刺交換、情報交換を行い、大手企業の若手女性と広告代理店OBとのやり取りや、IT広告代理店の女性社員が名刺交換に動き回るなど、業界の縮図を感じさせました。

その他にも制作会社とイベント会社、タレント、MC等プロダクション会社、印刷製作会社、ハウスエージェンシー会社勤務OBと幅広い業界人が集まったことも今回の特徴でした。また、今回初めてMMC会員で国会議員の先生もお見えになり、これには参加し

## 「明大学生被災者支援カンパ」パーティー会場で実施!

この募金は、明治大学募金室の「明治大学被災学生支援義援金」を通じ、東日本大震災で被災した明治大学現役学生への奨学金等に充てられるものです。

当日、皆さまの厚意により集められた義援金は総額45,660円。

明治大学被災学生支援義援金として、明治大学教育振興協力資金寄付窓口に振り込まれました。



ていた現役学生にも刺激になった様子。

このサロン、MMCの就職セミナーやマスコミ講座を経て、晴れてマスコミ人となった若手の参加が徐々に増えています。次回は4月を予定しています。是非ご参加ください。

柳澤克行(78年・政経)

## 第24回MMCゴルフコンペへ 武内裕杯紅葉コンペ報告



パブリーなクラブハウスの前で

### 十二月二十日、快晴

しばらく不順な天候が続いていましたが当日は快晴無風の参加が徐々に増えています。今回は4月を予定しています。是非ご参加ください。

柳澤克行(78年・政経)

### 堀さん二年ぶりの優勝

堀さんは二年前の春の観桜コンペで優勝しましたが、秋の優勝は初めてでしょうか、記憶にありません。優勝のスピーチで「来年は傘寿を迎えるのでエージシュートを目指したい」

順位	氏名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット
優勝	堀 威夫	43	43	86	15	71
2位	佐々木 共成	42	43	85	10	75
3位	中根 薫	47	45	92	12	80
4位	泊 三夫	48	45	93	13	80
5位	永井 進	48	47	95	15	80
6位	齋藤 柳光	57	44	101	20	81
7位	宇都 大勝	46	49	95	12	83
8位	大西 敏勝	50	48	98	15	83
9位	檜 郁太郎	46	50	96	12	84
10位	久保田 耕平	56	48	104	16	88
11位	木村 武	54	55	109	20	89
12位	内田 正彦	57	52	109	15	94



武内裕杯授与

と力強く宣言されました。まずまずお元氣、エージシュート達成記念パーティーが開かれるのもそう遠くないのではと期待しています。

**初参加 永井進氏・宇都大勝氏**

あわよくば初参加優勝を目指しましたが二人とも本意な成績に終わりました。雰囲気にもなじんだので次回の優勝は期待できるかもしれません。

## 「パーサス会」コンペの紹介

このコンペは大学OB対抗ゴルフコンペです。チーム戦で上位五名の合計スコアで争います。八十名・十五校早、慶、明、法、日、拓、中、東経、北大など)が参加する大コンペです。箱根駅伝並みに学連選抜チームもあります。

優勝すると賞金はごくささやかですが、表彰式で校歌三番まで歌わせてもらえるという荣誉に浴します。母校のためにいい大人がむきになって戦います。

MMCメンバーの参加は三年前から、常に上位ですが今二歩で優勝を逃がしています。大西、佐々木、堀口、永井、檜他の強力メンバーが参加しています。年三回開催され、二十四年は一月二十日ですのでMMC総会の際には朗報をお伝えできると思います。腕に自信のある方は是非ご参加ください。

## 次回観桜コンペ参加者大募集

平成二十四年三月二十八日  
相模カンツリー倶楽部  
幹事・檜郁太郎(64年・商)  
(申込連絡先090-2247-1121)

## 編集後記

◆昨年は、恒例ホームカミングデー、賑々しく開学130周年、記念式典と校友大会千二百名、駿河台に集う。

◆MMC過去、いま、未来へ。(Y・M)